



ジェンダーの視点から空間をよみ直す研究

人文科学系・人文社会学領域

吉田 容子

教授

YOSHIDA Yoko

博士(文学)(大阪市立大学)



Nara Women's University



研究者総覧

■研究キーワード 都市社会地理学, ジェンダー

■主な所属学会 日本地理学会, 人文地理学会, 経済地理学会, 地理科学学, 日本女性学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.4902563f2403b13e520e17560c007669.html>

研究概要

地理学の研究対象は、地表上の諸現象です。地表上、すなわち地図上に示すことのできる地域において、どのような自然現象や人文・社会現象が生じているのかを具体的に調査し、得られたデータの分析・考察をつうじて、地域の特性、あるいはまた、他の地域との共通性を見出していきます。そのなかで、人文・社会現象（産業・経済、都市・村落、社会・政治・文化、民族など）を研究の対象とするのが人文地理学です。

現在の人文地理学では、人文・社会現象の中で実際に見えにくく可視化されにくい、それゆえ地図上には表わすことができない対象についても、研究が進められています。たとえば、男女間の権力関係としてのジェンダーは、関係性の問題ですから見えにくく、捉えにくいものです。しかし、ジェンダーという権力関係は長い間私たちの社会に入り込み、影響を与えてきました。そのため、私たちの日常空間にはジェンダー関係が投影されています。私は、そうした空間に刻み込まれたジェンダーという権力関係を暴き出すことを目的として、研究を進めてきました。



地理学におけるジェンダー研究に関する図書（上記図書名等、左から）

吉田容子『地域労働市場と女性就業』古今書院、2007年

ローズ・G. 著、吉田容子ほか訳『フェミニズムと地理学』地人書房、2001年

神谷浩夫編監訳・吉田容子ほか訳『ジェンダーの地理学』古今書院、2002年

吉田容子・影山穂波編著『ジェンダーの視点でよむ都市空間』古今書院、2024年

研究のプロセス・研究事例

人文地理学にジェンダーという切り口、つまり視点を導入し、理論面および実証面から、地理学におけるジェンダー研究の発展をめざしています。さらに説明すれば、ジェンダーのみならず、エスニシティ、セクシュアリティ、社会階層など、さまざまな社会的関係から生み出される利害、矛盾、差別が、人々の実践を介して都市空間へと投影されていく過程を把握し、さらに、そこから再び社会的なものが生み出されていく過程を読み取る作業をしています。

研究のキーワード：ジェンダー、セクシュアリティ、差異、権力、身体、社会的不平等、空間、場所、アイデンティティ など

空間や場所をジェンダーの視点から捉えた、以下のような研究課題（科研費採択分）に取り組んできました。

- *都市空間における女性の商品化－米軍基地周辺遊興街の社会・歴史地理－
- *空間・場所をめぐる諸権力の解明－沖縄を事例としたフェミニスト分析から－
- *日本における遊興街の生成・維持－戦後から現在までの都市空間誌－
- *地域社会における格差・不平等生成過程の解明
- *「失われた10年」の人文地理学的検証－地域経済のジェンダー分析を通じて－
- *コロナ禍において困窮する人々－地域社会および地域労働市場の分析を通じて－

引き続き取り組んでゆきたい研究は「基地とジェンダー」です。米軍基地は沖縄県に集中しているものの、北海道から沖縄まで国内に130か所余りあります。敗戦後の日本に米軍基地がつけられると、その周辺は瞬く間に遊興街と化し、とくに朝鮮戦争やベトナム戦争時には特需景気で地域経済が潤いました。基地周辺の遊興街は、さまざまな主体の関係性をもっとも具現化された空間といえます。つまり、戦勝・支配／敗戦・従属という国家間の政治レベルの権力関係のみならず、人種・民族・階級・年齢・ジェンダー・セクシュアリティなど多様な差異から生じた権力関係が刻まれた空間なのです。